

屋根の雪下ろしは危険がいっぱい！

安全な

雪下ろしガイド

毎年雪下ろし中の転落事故が多発しています。
雪下ろしが必要な場合は、業者への依頼も検討しましょう。



どうしても自分で雪下ろしを
する必要があるときは、
次のポイントに注意しましょう！！

山形県

安全・安心な冬の暮らしのため



2人以上で 周囲にも注意！

- 事故に備えて2人以上で作業しましょう。
- やむを得ず1人で作業する場合は、家族と隣近所に声をかけましょう。
- 携帯電話も持ちましょう。
- 軒下の人や電線にも注意しましょう。



【ヘルメット】
あごひもを締めよう



【動きやすい服装】
厚着はダメ！

【墜落制止用器具】
抜け落ちる
心配のないもの

【防寒性ゴム手袋】

【ゴム長靴】
すべりにくい



安全な 服装で！

- ヘルメットを正しく着用しましょう。
- 着ぶくれしないで動きやすい服装にしましょう。
- 厚底の長靴は避けましょう。足裏の感触が大切です。
- すべりにくい防寒性のゴム手袋がお勧めです。



墜落制止用器具



墜落制止用器具

ヘルメット

手袋

命綱

の雪下ろし作業8つのポイント！

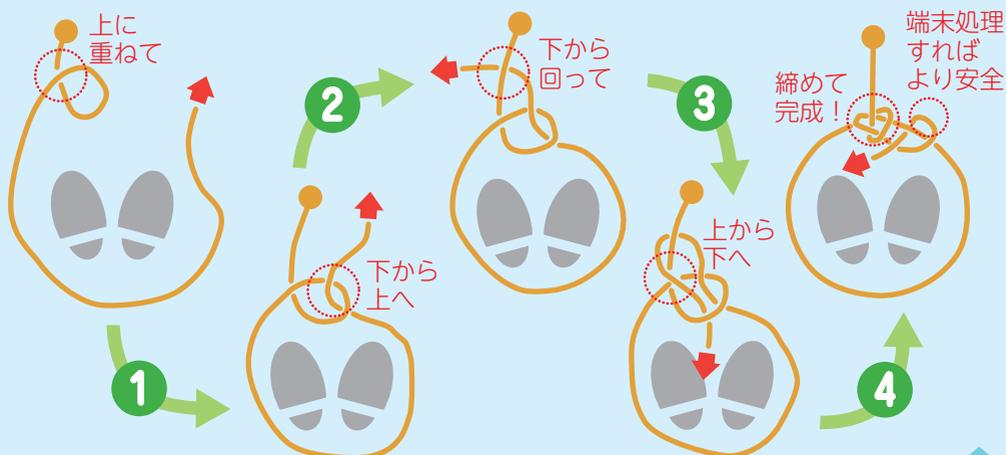
ポイント

3

命綱を 使いましょう！

- 転落防止のために命綱を使いましょう。
- 命綱にはザイルや麻ロープなどを使いましょう。トラロープはすべりやすいので、使わないようにしましょう。
- 命綱を固定するには、専用のアンカーを使う、反対側の家の柱に結ぶなど、状況に応じて工夫しましょう。
- 命綱を体に固定するには、安全帯など幅広いものを使いましょう。
- 命綱は正しく結びましょう。
- 命綱は屋根の上で止まる長さに調整しましょう。
- 命綱は正しく使用しないと、逆に危険です。

●もやい結び(命綱)の方法



ポイント

4

はしごは しっかり固定！

- 転倒防止のため、はしごの足元をしっかりと固め、上部をロープで固定しましょう。
- 長さは軒先より60cm以上高くしましょう。
- 屋根に対して真っ直ぐに、決められた角度でかけましょう。
- はしごの昇り降りは特に注意が必要です。

- 1 ロープで固定！
- 2 足元を固める！
- 3 ななめ屋根への立てかけははしごがずり落ち危険！



はしごの表記を確認



ポイント

5

使いやすい 除雪道具を！



- 軽くて雪が付きにくいアルミ製スコップやスノーダンプを使いましょう。
- 雪が付きにくくなるワックスやスプレーもお勧め。
- 窓からのつらら落としは、長い棒を活用してこまめにやりましょう。

の雪下ろし作業8つのポイント！

ポイント

6

屋根の雪の ゆるみに注意！

- 暖かい日の午後は、屋根の雪がゆるんで転落の危険が高まります。雪下ろしは避けましょう。
- 雪解け水や雪が動く音に注意しましょう。



ポイント

7

無理な作業は やめましょう！

- 雪下ろしは重労働です。体調の悪いときは避けましょう。
- 準備運動を忘れずにしましょう。
- 十分に休憩をとりながら、何回かに分けて下ろしましょう。
- 危ないときはスコップ、スノーダンプを離して身を守りましょう。

ポイント

8

順序を守って、 足場は特に注意！

- 落雪に巻き込まれないように、上から雪下ろしをしましょう。
- 軒先の雪は、作業の最後に落としましょう。
- 足場は慎重に作りましょう。
- 軒先の作業は大変危険です。雪止めより下には足場を作らないようにしましょう。
- 厚さ20cm程度の雪を残した方がすべりにくいです。



恐ろしい屋根雪

《屋根雪の衝撃力》

屋根から硬い雪が落ちると大きな衝撃力（0.3～5トン/㎡）が生じ、人に当たれば大けがをします。

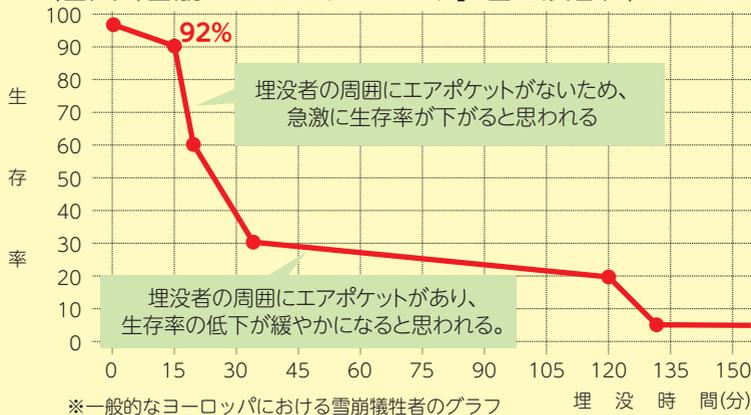
○衝撃力が持つ破壊効果の目安（出典「雪氷防災」白亜書房）

衝撃力（トン/㎡）	破壊力の目安
0.1	窓を破壊
0.5	ドアを吹き倒す
3	家の木組を破壊

《もし雪に埋もれてしまったらこんなことに》

大人でも、わずか30cmの雪に全身が埋まってしまうと体を持ち上げられなくなります。口が完全にふさがれた場合、15分を過ぎると生存率は急速に低下します。

○雪崩埋没時間と生存率／422人の雪崩遭難者の埋没時間（出典「雪崩リスクマネジメント」山と溪谷社）



《屋根から落ちたら大変》

高さ10mの屋根から落ちた場合の衝突速度は時速35kmに達し、地面がむき出しの舗装面であれば自動車の正面衝突と同程度の大けがを負います。

こんな事故がおきています

《雪下ろし中にはしごから転落》

屋根に立てかけたはしごに昇るときに、はしごがずり落ちて転落し骨折。

《屋根から雪と一緒に転落》

一人で屋根の雪下ろしをしていたところ、雪と一緒に転落し大量の雪に埋もれ窒息。

《突然の屋根からの落雪、落氷》

暖房機の屋外排気口の雪を取り除いている最中に、屋根から雪が落ちてきて打撲。

《水路に転落》

作業中に、あやまって水路に転落。



雪下ろし中の高齢者の転落事故が多発しています！

- 県内では、転落・落雪・除雪機による事故が毎年発生し、死亡に至るケースもあります。その中でも、高齢者の転落事故が大きな割合を占めています。
- 8つのポイントに留意し、雪下ろしが不要な積雪深の場合は、無理をして屋根に上がらないようにしましょう。



雪下ろし・落雪事故防止 注意喚起情報を発信します!

山形県では、屋根からの落雪や雪下ろし中の転落事故が発生しやすい状態になったことのお知らせする

「雪下ろし・落雪事故防止注意喚起情報」を発信します。

《注意喚起情報を発信する条件》

12月から3月までの降雪期間、最高気温や積雪などの気象データをもとに状況を判断し、発信します。

《情報の入手先》

ホームページをはじめ、県内報道機関の協力を得ながら広く発信していきます。

「こちら防災やまがた!」

<https://www.pref.yamagata.jp/020072/bosai/kochibou/index.html>



「山形県雪情報システム」※降雪量予測情報を提供しています。

<https://www.pref.yamagata.jp/snow/>



**万が一事故が発生したら
119番通報してください!**

山形県防災くらし安心部 防災危機管理課 TEL023-630-2230



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。